

WE LOVE COMEDY

アハコ

珠玉のふんわりコメディ

# もやし

作 小川未玲  
演出 保科耕一

キャスト

根本泰彦  
吉川亜紀子  
松澤太陽  
田辺静恵  
小泉聡美  
川本克彦  
後藤 敦

昭和30年代がよみがえる  
優しく真面目に生きていた  
もやし屋さんの物語



# もやしのおひつ

うた

作 小川未玲

演出 保科耕一

キャスト



泉 恵五郎  
根本 泰彦



泉 十子  
吉川 亜紀子



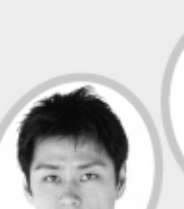
泉 一彦  
松澤 太陽



佐々木 とみ  
田辺 静恵



高野 九里子  
小泉 聡美



村松 幸雄  
川本 克彦



近藤 喜助  
後藤 敦

あらすじ

電化製品が普及し始めた1960年代。手作業でもやしを生産している「泉商店」の長男 恵五郎は、妻に先立たれ一人で息子を育てながら、寝る暇もなくもやしを作り続けていた。妹の十子と弟の一彦は、自分の事ばかりで店を全く手伝おうとせず、ある日、ふらりと現れたもやしっ子のような青年を住み込みで雇うことになる。家族や周囲の人々との心通う交流を懐かしく描き出した、小川未玲の珠玉作です。



2004年初演より(撮影:木山陽子)

劇評より

●若手劇作家の小川未玲が、時代の転換期に着目してじっくり描きこんだ家族劇。ささやかでも、確かな幸せのありかを実感させた味わい深い舞台。たとえ小さくても、幸せはやっぱり幸せなのだと思わせ、現代人の見失ったものを照らし出します。「経済成長」の波に乗ることが幸福だという“神話”が流布される時代への、小声の異議申し立てが、びりりと効いたカラシのように、作品をひきしめています。

(しんぶん赤旗・金子徹)

●高度成長の機械化、生産性重視の風潮のなかで店は続けられるのか、一家の生活にふれながら、ユーモアとペース豊かに展開します。薄暗い室の中で、四斗檯の上に厚く降り積もった雪のように生え揃って白く輝くもやしを、二人がじっと眺める時、確かにもやしの奏でる音を聞いたような気がします。喜劇一筋のこの劇団ならではの、チクリと風刺の利いた趣向だと言えましょう。(演劇評論家・みなもごろう)

初演アンケートより

- しみじみとした優しさと笑いが心に残る良い芝居だった。
- 昭和30年代の古き良き時代の情景を垣間見た気持ちで、とても懐かしく感じました。
- 今日でもやしを買って帰ろう!何度かみしめて味わいたいと思います。
- 日本の生活が変化する様子が上手く描かれていた。ストーリーや演出、俳優の演技もリアリティがあって、共感できる芝居だった。また見たい!
- 涙と笑いと色んな要素をたくさん含んで、本当に充実した楽しい感動をもらいました。



撮影:石川純

スタッフ 音楽:上田 亨 装置:大田 創 照明:藤田隆広 衣裳:伊藤早苗 音響:岩本道雄 舞台監督:金子武男 ヘアメイク:アトリエオバード  
制作:白川浩司、吉川朋美 イラスト:花岡道子 宣伝美術:市川きよき事務所